

北海道手をつなぐ育成会 げっぽう

第815号

昭和39年3月13日第三種郵便物認可第10号(毎月1日発行・定価一部10円会費を含む)

●発行日—令和7年(2025年)12月1日

●発行所—北海道手をつなぐ育成会

〒060-0002 札幌市中央区

北2条西7丁目かでる2・7(4F)

電話 011-251-0855

FAX 011-251-0804

Eメール doikusei@air.ocn.ne.jp

●発行人—佐藤春光

印刷所 (株)北海道機関紙印刷所

だい 19回
ほんにん かい
本人の会
ぜんどうこうりゅうかい
全道交流会

ひろげよう みんなのわ

in 函館開催
91名参加

北海道新聞社会福祉振興基金の助成を受け、毎年開催している「ひろげよう みんなのわ」が、今年度は、函館市で10月18日(土)に開催されました。8本人会・育成会の91名が、函館市総合福祉センターと函館市内で交流の輪を広げました。

函館いかす会の成田伊織さんの司会で開会式が行われ、青木克也さんの開会宣言の後、実行委員長の濱村拓馬さん(写真)が「前半に、防災について学び、後半は、函館の観光名所からピックアップした2カ所をバスで観光します。少ない時間ですが、交流をたくさんしましょう」とあいさつしました。その後、北海道手をつなぐ育成会佐藤会長があいさつをしました。



第1部
勉強会「防災について」



函館市災害対策課三上勝氏を講師として、大雨・地震・津波を中心に、災害がどのように起こり、どんな被害が出るのか、身の安全を守るためにはどうするか、また日頃からどんな備えが必要かなどについて説明を受けました。

1時間ほどの勉強会の後、バス観光に出る前に閉会式を先に行い、副実行委員長の千葉昌代さん、函館手をつなぐ親の会 相馬会長のあいさつ、石狩大地の会から来年の開催についてのお話がありました。

第2部
函館市内バス観光

第2部は、五稜郭タワーと函館山をめぐる、函館市内観光です。3台のバスに分乗して、函館のランドマークと



世界三大夜景を見るツアーです。しかし、残念ながらの雨模様。夕方にはやんではしいと、みんな祈っていました。雨は強くなるばかり。でも、仲間と一緒にの観光ですので、元

気よく、わくわくして出ました。最初の五稜郭タワーでは、展望台に上り、星形の城郭や函館の街並みを眺めたり、土方歳三ブロンズ像と写真を撮ったり、新撰組ソフトクリームを食べたりしました。下に降りた後は、アトリウムの売店でお土産を買ったりしました。

夕暮れが近づくと、夜景を期待して函館山へ。しかし、山頂は雲に覆われ、眼下は真っ白。それでも風で雲が切れ、時々現れる街灯りに、歓声を上げていました。

天候には恵まれませんでした。仲間と一緒に、ほかの地域の仲間との再会と交流を満喫できました。



全道大会分科会報告

○第1分科会

■テーマ「意思決定支援・合理的配慮・権利擁護・制度の改善」

報告者の札幌市手をつなぐ育成会事務局長の深宮しのぶ氏から「障がい者が参加しやすく、わかりやすい選挙を目指して」という内容で、障がいがあっても選挙に参加したいという思いに寄り添い、東京都柏江市の取り組みを参考に、札幌市における選挙支援カードの導入にいたるまでの長く大変な取り組みをご紹介いただきました。同じく報告者として、江別手をつなぐ育成会理事の小林鉄也氏から「意思決定支援ガイドラインについて」支援者として、保護者として、地域共生社会に向けて意思決定支援の大切さを考える」をテーマに、保護者と支援する立場の両方の視点で、本人の意思を最大限尊重すること、支援者が一方的に決めるのではなく、本人が自分の考えを表明できるよう、選択肢をわかりやすく提示し、理解を助ける工夫の大切さについて報告がありました。

その後、全育連常務理事・事務局長の又村あおい氏からの基調報告、討議を行い、参加者からの質疑応答と大変有意義な時間となりました。

(江別手をつなぐ育成会 神宮司 朋子)



○第2分科会

■テーマ「暮らし、防災システム、福祉避難所」

第2分科会には36名が参加しました。初めに道育成会 藤田明宏氏から、今年1月に実施された道育成

会アンケートの結果から個人では想像できない避難時の課題を知りました。今年8月のカムチャツカ半島沖地震での避難から、真夏の避難の課題もお話し下さいました。次に、親の立場から北広島市しょうがい児者を持つ親の会会長 加藤裕子氏、穂別手をつなぐ親の会 藤原眞希氏から報告がありました。胆振

東部地震の経験から、家族が別々の場所にいる場合に無事に合流できるのか、避難所での生活に子供が耐えられるのか、大人が仕事を休めない中で子供たちの居場所をどうするか困ったことなどが話され、地域で助け合える仕組みが必要だとの思いを述べました。北ひろしま福祉会・北海道災害派遣福祉チーム 石黒尚行氏は、令和6年の能登半島地震の被害状況やD-WATの被災地支援の経験から、平時からの家庭での備え、発災時の行動のポイント、制度などについて話されました。最後に伊達市手をつなぐ育成会・北海道知的障がい福祉協会会長 大垣勲男氏より、避難行動要支援者の個別の避難計画策定について、伊達市の取り組みをお話頂きました。災害時、一次避難所に行くのか、直接福祉避難所に行けるのか、個別計画だけではなく、要支援者と福祉避難所のマッチングや事前見学の必要性を話されました。

分科会での学びから、必要な支援を求める声を出すことは、自分の為から次の誰かの為になる事を忘れずに居住地域に持ち帰ろうと思いました。

(北広島市しょうがい児者を持つ親の会 仲上 知子)



○第3分科会

■テーマ「全国の実践、好事例から学ぶ」「育成会活動の活性化と本人活動」「本人支援」

はじめに全育連会長 佐々木桃子氏による「育成会

活動の再活性化」と題した基調報告が行われました。地域における育成会活動の役割やICTの利用による学齢期会員を増やすための具体例などをご紹介いただき、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

次に石狩市手をつなぐ育成会副会長 石尾いく子氏が「P&Aいしかりの活動報告」と題して啓発活動の様子を実際に使われているパンフレットやコミュニケーションボード等の紹介を交えながら報告くださいました。続いて名寄心と手をつなぐ育成会事務局 岩崎甚一郎氏が「育成会活動の活性化のために」地域とのつながりと本人支援」をテーマに地域住民との交流を通じて会員が活躍できる育成会として成長していく様子を支援者の立場からお話いただき、最後に名寄陽だまり本部会事務局の澤田亜希氏が生活介護事業所で準支援員として働くなかで、ご自身が感じている心の葛藤や成長、そして「明るく前向きで優しい支援員になりたい」という目標について力強く語ってくださいました。

報告後の意見交換では、

佐々木氏のコーディネートで、地域での活動の工夫や情報発信の方法について活発なやり取りが行われ、参加者は熱心にメモを取り、質問を重ねていました。分科会の最後には、理解啓発や権利擁護をはじめとする今後の具体的な取り組みへの意欲を参加者全員で共有し、育成会みんなで力を合わせ、誰もが安心して暮らすことのできるまちを目指して活動が続けていくことの大切さを改めて確認することができました。

(石狩市手をつなぐ育成会 今西 浩子)



本人大会分科会報告

○第1分科会(虐待・権利・人権)



第1分科会は20名の本人参加がありました。前半は3名から発表があり、それぞれから、◎今の生活の紹介、最近健康面での困りごとが増えている、◎今後の生活に不安がいつぱいあること、◎通所先の仲間から嫌なことをされて困ったが、その時に職員のアが

行き届かなかったことと今の気持ちについて、◎学校でのいじめは辛かったが今は当事者会、職場、サッカーの仲間ができて、困った時に相談の出来る人もいて充実した生活を送れている、との話がありました。後半は3つのグループに分かれて話し合い、どのグループでも自身の辛い経験や他の人の話への共感が語られ、全員が心の奥の気持ちを熱心に話していました。多くの方が最も伝えたかったことは、支え合う仲間がいることと相談のできる人がいることの大切さでした。分科会の終わりに、皆さん元気をもらった表情になっていたのがとても印象的でした。

(石狩大地の会支援者 野田 宏)

○第2分科会(仕事・暮らし・健康)

第2分科会では、37名の方に参加して頂きました。旭川働く仲間の会の浄野誠一さんと伊達わかば会の木須光政さんが、息を合わせて進行してくれました。発表は、旭川働く仲間の会から高林統穂さん、名寄心と手をつなぐ育成会なよろ陽だまり本人部会から藤沢歩夢さんの2名の方にお話ししていただきました。高林さんは「僕の仕事について」、藤沢さんは「毎日の暮らしの中で感じたこと」をテーマに発表し、参加者のみなさんは真剣にお話を聞いていました。

その後、参加者は6グループに分かれて仕事、暮らし、健康をテーマにグループワークを行いました。グループワーク後に話し合いの内容を発表してもらいました。多くの方に分科会に参加して頂き充実した分科会となりました。



(旭川働く仲間の会支援者 本田 陽祐)

○第3分科会(何でも話そう)

第3分科会は本人、支援者合わせて20名程の参加者で行われました。発表の一人目は函館いかす会の濱村拓馬

さんが「ぼくの仕事」というテーマで、二人目は旭川手をつなぐ育成会ひばりサークルの菅原広美さんが「今、自分が感じていること！」をテーマに発表しました。



発表後の質疑応答で濱村さんへ、「仕事で大変なこと？」と質問があり、「一生懸命に仕事を頑張る」と話されていました。菅原さんは「いじわるされた人に感謝するとは？」との質問に対して、「自分を成長させてくれてる」「苦手な人がいたらその人の長所を見つけて」と話してくれました。

最後は一人一人感想を話し合い、「菅原さんはポジティブな人」「とても勉強になった」「色々な人の話が聞けて良かった」「皆も頑張っているから自分も頑張ろうと思う」と、初めて参加した方の意見や、前向きな感想が出ていました。

皆が楽しく仕事ができ、幸せに暮らしていけたら良いなと感じた一日でした。

(しらおい障がい者と手をつなぐ会 本人部会支援者 吉見 真由美)

1月の予定

19日(月) 第2回活性化対策委員会

障害のある方向け 総合保険

あ！それうちかと思った方！

ぜんちの あんしん保険 障害のある方とそこご家族へ

少額短期健康総合保険(無告知型)2019年創設

- ・病気やケガにしっかり備える
- ・告知や障害者手帳は不要
- ・入院日額最高1万円
- ・権利擁護費用補償
- ・総合生活保険(個人賠償責任補償)で賠償責任を補償(国内は東京海上日動の示談交渉サービス付き)

入通院の悩み

- ・突然の病気やケガが心配
- ・入院時の出費に備えたい
- ・障害があっても入れる保険を探している

賠償の悩み

- ・パニックになって他の人にケガをさせてしまったらどうしよう
- ・デイサービスでヘルパーさんのメガネを壊してしまった

相談しにくい悩み

- ・虐待や差別を受けた
- ・詐欺に遭わないか心配

ぜんちの こども傷害保険

特別支援教育を必要とされている方へ
権利擁護補償付傷害保険 2019年創設

- ・特別支援教育を必要とされているお子様に
- ・ケガによる入通院を日額保障
- ・権利擁護費用補償
- ・総合生活保険(個人賠償責任補償)で賠償責任を補償(国内は東京海上日動の示談交渉サービス付き)

詳しい資料のご請求・お問い合わせはこちら

24TX-004230(2024年12月作成) Z012-2411R00

ぜんち共済株式会社 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5
関東財務局長(少額短期保険)第14号 九段北325ビル4階

平日10時～16時
土日・祝日・年末年始を除く

0120-322-150

URL: <https://www.z-kyosai.com/>

※このご案内は、保険の概要についてご紹介したものです。契約にあたっては「ご契約に際しての重要事項」「約款」「東京海上日動の「重要事項説明書」」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。補償を受けられる方またはその家族が、補償内容が同様の保険契約を他にご契約されているときには、補償が重複することがあります。

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社オフィスブレイン

〒060-0032

北海道札幌市中央区北2条東3丁目2番地 札幌セントラルビル2F

TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

知的障がい児者・発達障がい児者(自閉症児者を含む)の 生サポは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
 - 就労に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者、発達障がい児者(自閉症児者を含む)のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

生活サポート総合補償制度は…

全国で約15.7万人※のみなさまにご利用いただいている補償制度です。

※2024年11月時点

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、
職業従事者事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

株式会社 ジェイアイシー 北海道支店

〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地102

レジディア大通公園2F

TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

<https://www.aig.co.jp/sonpo>

札幌支店

〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F

TEL: 011-204-7510

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

北海道知的障害児者生活サポート協会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かのり 2・7 4階

北海道手をつなぐ育成会内

TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2025年1月現在の内容です。(D-007611 2026-03)

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の
目的です。私たちは、『経営』と『志』の統一を
目指しています。体力のある事業所も体力のない
事業所も助け合います。あなたの事業所の入会を
待っています。

北海道手をつなぐ育成会 事業所協議会

〒060-0002

札幌市中央区北2条西7丁目 かのり 2・7 (4F)

電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804

E-mail: doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

特定非営利活動法人 森の家

〒086-1011 標津郡中標津町東11条南7丁目

TEL・FAX (0153) 72-5242

E-mail: forest1@snow.plala.or.jp

★就労継続支援B型事業所
(定員20名)

★主な生産活動

- ☆手芸品・木工品作り
- ☆野菜の栽培・販売
- ☆もみ殻燐炭作成・販売
- ☆家庭の清掃・環境整備
- ☆その他請負作業

